

伊勢市の就学前の子どもの教育・保育について
提 言

平成25年2月18日

伊勢市就学前の子どもの教育・保育に関する検討委員会

目 次

I	はじめに	2
II	検討の経過	3
III	伊勢市の就学前の子どもの教育・保育の現状と課題	4
IV	提言	
1	すべての就学前の子どもに対応する教育・保育について	8
2	発達や学びの連続性を踏まえた教育・保育について	8
3	子育て支援の充実と家庭・地域との連携について	10
4	認定こども園について	10
5	公立施設のあり方について	11
V	おわりに	13
	委員名簿	14

I はじめに

伊勢市において、就学前の子どもの教育・保育の整備を進めるために、平成19年8月に「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する整備方針」が策定され、平成21年2月に「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する施設整備計画」を第一次計画として平成21年度から25年度までの5カ年の計画が策定されました。

この計画の主な内容は、公立施設の役割と機能、将来における公立施設数および民間への委ね方、教育・保育の質の向上です。

市では、平成19年度に「就学前の子どもの教育・保育連絡協議会」を設置し、公立私立の保育所・幼稚園がともに協議し、連携しながら途切れのない育ちを保障するための教育・保育の実践が行われています。また、あさま保育所と四郷幼稚園を一体化し、平成23年4月に幼保連携型認定こども園「しごうこども園」が開設され、就学前の子どもの教育・保育と子育て支援が総合的に提供されています。

このように、市において順次計画に沿った整備が進められてきましたが、国において平成22年1月に「子ども・子育て新システム検討会議」が設置され、幼保一体化を含む新たな次世代育成支援のための包括的・一元的なシステム構築についての検討が始まりました。平成24年8月には「子ども・子育て支援法」、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律」（認定こども園法の改正）、及びこれらの法律の施行に伴う「関係法律の整備等に関する法律」（以下「子ども・子育て関連3法」という。）が公布され、平成27年度から「子ども・子育て支援新制度」の本格施行が予定されています。

本検討委員会は、伊勢市からこれらの国の動きを見据えながら、新たな制度に沿って「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する整備方針」の見直しを行い、さらなる充実を図るために協議及び検討を行うよう依頼されたものです。

本検討委員会では、就学前の子育て家庭を対象としたアンケート調査や幼保連携型認定こども園「しごうこども園」の現地視察を行うなどしながら、7回の検討委員会を開催し、検討を重ねました。検討にあたっては、伊勢市の子どもたちが、生涯にわたる人格形成の基礎を培うことのできる教育・保育環境の実現を最重要課題として、伊勢市における就学前の教育・保育のあり方について検討を行いました。

ここに、その結果を提言いたしますので、伊勢市におかれては、この提言を基に、広く市民の理解を得ながら、次代を担う子どもたちに、よりよい就学前の教育・保育を提供するための政策が実施されることを期待します。

伊勢市就学前の子どもの教育・保育に関する検討委員会

II 検討の経過

平成24年2月20日（月）

第1回検討委員会 幼児教育・保育の現状と課題について
「子ども・子育て新システム」について

平成24年3月11日（日）

就学前の子どもの教育・保育講演会
演題：子ども・子育て新システムとこれからの就学前教育・
保育施策
講師：山縣文治氏（大阪市立大学教授）

平成24年6月15日（金）

第2回検討委員会 アンケートについて
就学前の子どもの教育・保育のあり方について

平成24年7月～8月

就学前の子どもの教育・保育に関するアンケート調査
対象：保護者1,000名 回収率：51.7%

平成24年8月7日（火）

第3回検討委員会 子ども・子育て関連法について
就学前の子どもの教育・保育のあり方について

平成24年9月6日（木）

第4回検討委員会 就学前の子どもの教育・保育のあり方について
アンケート集計結果について

平成24年11月7日（水）

第5回検討委員会 アンケート集計結果について
提言案について

平成24年12月4日（火）

認定こども園（しごうこども園）現地視察

平成25年1月21日（月）

第6回検討委員会 提言案について

平成25年2月1日（金）

第7回検討委員会 提言案について

Ⅲ 伊勢市の就学前の子どもの教育・保育の現状と課題

1 社会の変化と子どもの教育・保育に関する環境について

少子化に歯止めをかけるべく様々な施策が講じられているものの、伊勢市における将来人口は、0歳から5歳人口が現状（2012年3月31日現在）の6,376人から2030年には4,354人と今後も一層の少子化が進むと推計されている。

人口減少時代を迎え、核家族化や地域コミュニティーの希薄化などから家庭や地域での子育てが困難となり、保育所や幼稚園などの就学前の子どもの教育・保育施設の担う役割が重要となっている。ワーク・ライフ・バランスの実現とともに、すべての子どもへの良質な成育環境を保障するために、幼児期における教育と保育の総合的な提供が求められている。

保育所や幼稚園では、さまざまな工夫をした取組がなされているが、親の経済状況や幼少期の成育環境によって格差が生じることがないように、子どもの最善の利益を考慮すべきである。さらに、すべての子どもが尊重され、その育ちが等しく確実に保障されるよう取り組まなければならない。そのためには、教育・保育の内容をより一層充実させ、子どもが就学前教育から小学校教育へとスムーズに移行できるような体制づくりを確立していくことが重要である。

2 保育所・幼稚園の現状と課題について

現在、伊勢市には、公立・私立合わせて、保育所が29施設、幼稚園が15施設、認定こども園が3施設ある。公立保育所においては11施設が、公立幼稚園においては3施設が築30年以上経過しており、このうち保育所4施設（さくらぎ・大世古・五峰・高城）においては、既に耐用年数を超過している。これらの施設については老朽化が進んでおり、今後、大規模修繕や改築が必要となる。

公立施設に関しては、平成22年度末に老朽化の激しかったあさま保育所と園児数が減少していた四郷幼稚園が閉鎖され、平成23年度から幼保連携型認定こども園であるしごうこども園が開設された。また、さくらぎ保育所は同一小学校区における私立の認定こども園の開設に伴い、平成25年度末で閉鎖することが決まっており、北浜幼稚園が園児数の減少により平成24年度末をもって休園することとなった。

地域によっては、保育所しかなく施設の選択の幅が狭い地域もあり、保育所・幼稚園の効率的な運営を検討しつつ、認定こども園の開設も含め保護者のニーズに応えられるような施設の配置となるよう努める必要がある。また、就学前の子どもの育ちの面からも、一定の規模を維持することに努めなければならない。

入園状況については、幼稚園では、総定員に対して園児数が下回る状況にあり、保育所では、地域により園児数にばらつきがある。また、小俣町内の保育所・幼稚園への入園希望が他地域に比べ多くなってきているが、周辺の宅地開発が進み人口が増加していることが原因と思われ、小俣地域においては、今後しばらくは園児数の増加傾向が見られると思われる。

伊勢市の保育所・幼稚園の合計園児数は過去5年間で大きな変動はない。

平成22年度に「あけの保育園」「えがお保育園」が開設されており、全体に占める私立保育所園児数の割合が増加している。また、平成24年度には私立幼稚園2園が認定こども園化した。(修道こども園 [幼保連携型]、和順こども園 [幼稚園型])

平成21年2月に出された「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する施設整備計画」では、将来における公立施設数および民間への委ね方について、「将来的な施設数を、幼稚園は3園程度、保育所は7園程度必要」と考えが示されている。そして、「民間施設の創設・機能拡大あるいは認定こども園等、教育・保育の機能の充実が図られることも考えられ、地域や民間施設の状況を勘案した上で、公立施設の定員の見直し、施設の廃止・統合・民間への委譲等を検討し、公立施設のスリム化をめざすこととする」とされている。

計画で想定されているように、計画策定後、公立私立の認定こども園化が進められたり、保育所が創設されたりしており、現状の施設の設置状況や今後一層進むであろう少子化による保育所・幼稚園の園児数の減少を見込んだうえで、「子ども・子育て支援新制度」に沿った施設の設置を検討していくことが必要である。

<参考>伊勢市内保育所

平成 24 年 5 月 1 日現在 (単位:人)

<参考>伊勢市内保育所					平成 24 年 5 月 1 日現在 (単位:人)					
	施設名	所在地	園児数	定員		施設名	所在地	園児数	定員	
公立 保育所	明倫保育所	吹上 2 丁目	72	90	私立 保育所	大湊保育園	大湊町	54	80	
	浜郷保育所	黒瀬町	103	120		一色保育園	一色町	124	120	
	さくらぎ保育所	桜木町	55	90		村松保育園	村松町	49	45	
	大世古保育所	大世古 4 丁目	133	150		船江保育園	船江 3 丁目	73	90	
	保育所きらら館	常磐 2 丁目	75	60		たけのこ保育園	常磐町	101	100	
	二見浦保育園	二見町荘	126	200		マリア保育園	岡本 1 丁目	121	120	
	五峰保育園	二見町山田原	96	100		東大淀保育園	東大淀町	55	80	
	高城保育園	二見町今一色	41	60		豊浜西保育所	磯町	135	120	
	あけぼの園	小俣町明野	93	100		みどり保育園	矢持町	22	60	
	しらとり園	小俣町湯田	60	60		有滝保育園	有滝町	40	60	
	ゆりかご園	小俣町本町	138	120		中須保育園	中須町	122	100	
	御菌第一保育園	御菌町長屋	162	180		佐八保育園	佐八町	60	60	
	御菌第二保育園	御菌町高向	91	150		みややま保育園	旭町	101	90	
							なかよし保育所	勢田町	53	45
							えがお保育園	小俣町元町	67	60
					あけの保育園	小俣町新村	95	90		
	公立保育所計		1,245	1,480		私立保育所計		1,272	1,320	

※公立保育所充足率…84.1%

私立保育所充足率…96.4%

<参考>伊勢市内幼稚園

平成 24 年 5 月 1 日現在 (単位:人)

<参考>伊勢市内幼稚園					平成 24 年 5 月 1 日現在 (単位:人)					
	施設名	所在地	園児数	定員		施設名	所在地	園児数	定員	
公立 幼稚園	神社幼稚園	神社港	23	50	私立 幼稚園	有緝幼稚園	船江 2 丁目	140	280	
	城田幼稚園	上地町	14	50		中島幼稚園	中島 2 丁目	48	200	
	北浜幼稚園	村松町	4	50		明倫幼稚園	岡本 1 丁目	63	210	
	小俣幼稚園	小俣町本町	150	200		常盤幼稚園	岩渕 1 丁目	25	100	
	明野幼稚園	小俣町明野	65	70		まるこ幼稚園	一之木 1 丁目	54	120	
	(休園)					神宮高倉山幼稚園	八日市場町	50	180	
	早修幼稚園	常磐 3 丁目	H18 年度から			神宮五十鈴川幼稚園	宇治中之切町	59	200	
	豊浜東幼稚園	東豊浜町	H20 年度から			双康幼稚園	黒瀬町	112	180	
	豊浜西幼稚園	西豊浜町	H20 年度から			ゆたか幼稚園	御菌町王中島	292	320	
	沼木幼稚園	上野町	H16 年度から			暁の星幼稚園	小俣町本町	135	200	
		公立幼稚園計		256		420		私立幼稚園計		978

※公立幼稚園充足率…61.0%

私立幼稚園充足率…49.1%

<参考>伊勢市内認定こども園

平成 24 年 5 月 1 日現在 (単位:人)

	施設名	所在地	区分	園児数	定員		施設名	所在地	区分	園児数	定員
公立認定こども園	しごうこども園	一字田町	長時間	94	70	私立認定こども園	修道こども園	楠部町	長時間	45	83
			短時間	5	30				短時間	57	60
							和順こども園	小俣町 元町	長時間	10	24
									短時間	124	192
	公立認定こども園計				99		100	私立認定こども園計			

※公立認定こども園充足率…99.0% 私立認定こども園充足率…65.7%
 (長時間 134.3% 短時間 16.7%) (長時間 51.4% 短時間 71.8%)

<参考>保育所・幼稚園園児数

	年 度	H20	H21	H22	H23	H24
公立保育所	園児数 (人)	1,437	1,467	1,376	1,295	1,245
	割合 (%)	34.83	35.63	34.37	32.02	30.47
私立保育所	園児数 (人)	1,173	1,169	1,218	1,271	1,272
	割合 (%)	28.43	28.39	30.43	31.43	31.13
公立幼稚園	園児数 (人)	288	307	273	256	256
	割合 (%)	6.98	7.46	6.82	6.33	6.27
私立幼稚園	園児数 (人)	1,228	1,174	1,136	1,138	978
	割合 (%)	29.76	28.52	28.38	28.14	23.94
公立認定こども園	園児数 (人)	-	-	-	84	99
	割合 (%)	-	-	-	2.08	2.42
私立認定こども園	園児数 (人)	-	-	-	-	236
	割合 (%)	-	-	-	-	5.78
合 計		4,126	4,117	4,003	4,044	4,086

(各年度とも5月1日現在)

IV 提言

1 すべての就学前の子どもに対応する教育・保育について

① 就学前の子どもの教育・保育の質の充実

平成 19 年度に「就学前の子どもの教育・保育連絡協議会」が設置され、公私立保育所・幼稚園及び小学校の情報共有・交換が行われている。伊勢市の就学前の子どもの教育・保育の質の充実に向けて、保育所職員による幼稚園での保育見学・体験や、幼稚園職員による保育所での保育見学・体験を公私立の別なく実施し、保育所職員と幼稚園職員の交流や教育・保育の相互理解などの取組を進めている。今後も、それぞれの保育所・幼稚園が地域における就学前の子どもの育ちを支える中心的な役割を担い、地域の特色を生かした教育・保育の質をより一層充実させる必要がある。

② 特別支援教育の充実

現在、臨床心理士、特別支援学校職員、大学教授等による保育所や幼稚園の巡回相談が行われたり、こども家庭相談センターに発達支援相談員が配置されたことにより、相談体制の充実が図られてきている。

このように専門家による指導・助言は、保育所職員や幼稚園職員にとっても、保護者にとっても、その後のよりよい子どもへの関わりにつながっていくものであり、今後さらに充実を図る必要がある。

また、保育所・幼稚園から小学校への就学にあたっては、特別な支援を要する子どもへの途切れのない支援が求められており、保護者の願いを尊重しながら個別の教育支援計画を作成したり、適切な支援について研修会を開催したりするなど、特別支援教育の充実に向けた体制作りについて一層推進していくべきである。

また、特別な支援を要する子どもを受け入れている私立の保育所・幼稚園には、状況に応じた人的、財政的な措置も考慮が必要である。

2 発達や学びの連続性を踏まえた教育・保育について

① 保幼小の連携

保育所、幼稚園、小学校の連携については、平成 19 年度に設置された「就学前の子どもの教育・保育連絡協議会」において公立私立、保育所・幼稚園の別なく、ともに協議、連携しながら実践に努めているところである。

保育所・幼稚園の園児の小学校での授業参観、体験活動等、保育所・幼稚園か

ら小学校への引継ぎ会等の実施、小学校職員の保育所・幼稚園での保育体験、保育所職員の幼稚園体験、幼稚園職員の保育所体験などが実施されている。

小学校が就学前の子どもの状況を把握することや就学前の教育・保育に関わる職員との交流が円滑に行われること、学校教育と就学前の教育・保育に対する相互理解を進めることは、スムーズな小学校生活のスタートに向けて非常に重要なものである。これらの保幼小連携の充実に一層努めるべきである。

② 幼稚園の3年保育

現在伊勢市では、公立幼稚園3園を除いてすべての幼稚園で3年保育が実施されている。3歳になると、子どもは、親への全面的な依存の状態から自立に向かい始める。幼稚園は、このような発達を踏まえて、初めての集団生活の中で、一人一人のよさや可能性を伸ばす場である。このことから、すべての幼稚園において3年保育の実施が望まれる。

平成24年8月に公布された子ども・子育て関連3法では、幼保連携型認定こども園について、学校及び児童福祉施設としての法的位置づけを持つ単一の施設とすること、認定こども園、保育所、幼稚園に共通する給付で財政支援を行うことなどの改善がなされた。

そこで、公立施設のスリム化を図り、幼保連携型認定こども園で3年保育を実現していくことが望ましい。

③ 保育開始月齢の統一

企業の育児休業も普及してきてはいるが、育児休業が無く、保育所に子どもを預けなければ就労できずに困っている保護者もいる。現状は、施設によって保育開始月齢が異なっているが、施設面での対応が可能であれば保育開始月齢を低く統一することが望ましい。

ただし、月齢の低い乳児の保育には保育士の配置にも配慮が必要となることから財政面での課題もあり、また、乳児保育のニーズも地域により異なるので、小規模保育や家庭的保育など柔軟に対応できる制度の活用を検討も必要である。

④ 社会性等を育てる集団の人数

就学前の子どもの教育・保育の環境としては、一定規模の人数がいないと教育的効果が出にくい。園児集団の規模が小さいと保育所・幼稚園職員と子どもとの

つながりが深くなる反面、集団としての力や社会性を身につけることに困難性が生じる。以上のことを鑑み、施設の園児集団の最低人数は従来の方針どおり 15 人が適当と考える。

3 子育て支援の充実と家庭・地域との連携について

① 子育て支援の充実

子育て支援センターが近隣地区になく、他地域の施設には行きにくいといった声もあることから、地域バランスを考えて広域的に平等に利用できるよう充実を図るべきである。

また、それぞれの保育所や幼稚園では様々な子育て支援事業が行われており、子育て家庭が身近で利用しやすい環境となるよう、これらの一層の充実が望まれる。

これらの子育て支援事業は、公立施設での実施のみならず、民間による実施を行政が支えることも必要である。

② 家庭・地域との連携

保育所・幼稚園では、地域の特色を生かした農業体験や身近な高齢者との交流、保護者と協同した行事開催など様々な体験活動を実施している。子どもに地域の楽しいところ、良いところをたくさん体験させたり、身近な大人と関わる機会をたくさん持たせたりすることで、子どもの地域・社会への愛着が深まることを考えた取組をしている。

地域の人材を活用したり、子どもの体験活動の場を地域に求めたりして、身近な大人が保育所や幼稚園での教育・保育活動に関わることを通して、地域・社会と協同した就学前の子どもの教育・保育の展開が望まれる。

4 認定こども園について

認定こども園では、一つの施設で保育時間の違う子どもが共に過ごすことによる子どもへの影響や、職員の関わりやすさが懸念されるが、保護者の就労状況に関わらずに等しく施設を利用できる認定こども園は、保護者のみならず子どもにとっても環境の変化を受けずにすむので有効である。既設の認定こども園における状況を十分検証しながら、公立・私立、保育所・幼稚園等、市内全体の教育・保育施設の適正配置を考慮しつつ、地域の状況に応じて施設を認定こども園化していくことも検討すべきである。

5 公立施設のあり方について

① 保・幼・小・中の連携を含む実践研究等の中核的な役割

公立幼稚園においては、教育課題をテーマとした実践研究を実施し、公開研究会でその成果を広く発信している。今後は、公開研究会の場で活発な議論が行われ、実践の成果を共有し、教育・保育活動を振り返り改善する機会とすることができるよう公立幼稚園（幼保連携型認定こども園）の実践研究の充実を図る必要がある。

また、公立幼稚園（幼保連携型認定こども園）においては、保幼小の連携等、実践的な研究をすることで、教育・保育の課題を明確にして、伊勢市独自の標準的なカリキュラムを明示するなど幼児教育の中核的な役割を担うことが必要である。

② 特別支援教育の中心的役割

公立施設は特別支援教育に積極的に取り組み、中心的役割を担うべきである。

公立施設の中でセンター的な役割を果たす園を指定し、その施設が中心となって、公立・私立、保育所・幼稚園での研修の機会を提供する等、職員の資質の向上に努めるべきである。

また、特別支援教育のセンター的な役割を担う施設は、幼保連携型認定こども園とし、そこには、専門的な経験や知識を持った人材を配置することが効果的である。

③ 多様な保育ニーズへの対応

園庭開放や子育て相談等の子育て支援に努め、未就園児も利用しやすい地域に根付いた施設とするべきである。

また、各中学校区に延長・休日保育や一時保育などの多様なニーズへ対応できる拠点的な施設が必要であり、私立施設との調整のもとで、公立施設はそれを積極的に担うべきである。

④ 将来における公立施設のスリム化について

少子化に伴い園児数が減少しており、行財政改革の観点からも市内全体の適正規模・適正配置を明確にしたうえで公立施設の統廃合等は止むを得ないと考えるが、統廃合等にあたっては多様な保育サービスを提供する施設として整備してい

くべきである。

統廃合や民間への移行にあたっては、就学前の子どもに等しく就学前の教育・保育が提供できるよう、私立とのバランスも考慮したうえで、子どもに与える影響を踏まえ、保護者への十分な説明のもとに行わなければならない。

⑤ 施設の適正配置

利用する施設までの距離に対する考えはさまざまであり、現実には多地域から利用されている施設もある。少子化に伴う園児数の減少を考慮し、子どもの社会性を育成できる適正規模化を踏まえた施設の配置について検討していくことが必要である。

⑥ 施設の改修計画

公立施設の多くが築30年以上経過しており、老朽化に伴う施設改修に加え、津波等防災対策は喫緊の課題である。小中学校の統合、私立との共存、子育て支援の充実を総合的に捉えて計画的に施設を整備することが望まれる。

V おわりに

伊勢市では、今から6年前の平成18年11月に「伊勢市就学前の子どもの教育・保育に関する検討委員会」が設置されました。

当時、近年の子どもを取り巻く環境の変化、ニーズの多様化を受けて、伊勢市では、就学前の子どもの教育・保育環境を整えることを目指し、主に「新しい時代に応じた伊勢市の幼児の教育・保育の充実について」、「伊勢市の幼児の教育・保育の施設の適正配置について」検討が行われました。これを受けて、平成19年8月に「伊勢市の就学前の子どもの教育・保育に関する整備方針」が策定されました。

その後、市では保幼小の連携や特別支援教育の推進などに取り組み、一定の成果も出されてきています。また、公立幼稚園の3年保育や公立・私立また保育所・幼稚園も含めた伊勢市全体の適正配置については、様々な検討が行われ、実施に向けての方向が示されてきましたが、未だ課題が残っています。

今回の検討委員会でも慎重に検討し、子ども・子育て関連3法に基づく新制度としての幼保連携型認定こども園への移行をひとつの方向として確認しました。

今後、ここにまとめました提言の趣旨に沿って、適切な対応が図られますようご尽力いただきたく、お願い申し上げます。

委員名簿

伊勢市就学前の子どもの教育・保育に関する検討委員会

区分	氏名	役職等	備考
学識経験者	深草 正博	皇學館大学教育学部長	委員長
学識経験者	田口 鉄久	皇學館大学教育学部教授	副委員長
小学校校長会	岩崎 眞市	大湊小学校長	
私立幼稚園職員	大藪 記三	有緝幼稚園長	
公立幼稚園職員	中津 和子	明野幼稚園長	
私立保育所職員	伊寿 秀夫	大湊保育園長	
公立保育所職員	小坂 泰子	御薊第二保育園長	
私立幼稚園保護者	田中 智子		
公立幼稚園保護者	大西 圭子		
私立保育所保護者	里村 明日香		
公立保育所保護者	加藤 真紀		